



「ガラスのブーケ」という名前の指輪たちで手元にお花を咲かせてみては。最近ではこんなガラスビーズのほかにも、木のビーズもお気に入り。素材な風合いが年配の女性にも人気



ピアスをイヤリングにリメイクしたり、修理したり。と細やかなフォローにおまかせして「長く使ってほしい」と三好さん



「ビーズに惚れ込んで、ビーズだらけ…」 「コピース狂」って呼んでもいいですか？

「一言で言うと、ビーズばかり笑」と話す三好直美さん。大好きなビーズをいつも身に付けていたから…という理由で、美術系大学を卒業後、ビーズを使ったアクセサリー作家に。現在「こ…人が住めるんですか？」と訊きたくなる味のあるビルにアトリエ&ショールームを構えて壁一面にビーズアクセサリーを展示。「同じデザインの商品でも、実はワンポイントだけ色を変えてみたり違うビーズを使ったりしてるとですよ」と言うように、無機質なビーズの一粒ひと粒が、彼女の手に掛かると命を与えられたように人間的な温かみ加わるような気がする。そんな自称・ビーズばかりの三好さんにキュンとしちゃって、トルコビーズのピアスをついつい買ってしまいました。

●ぶらん

■京都市北区紫野宮西町18 ライトビル3F-C
☎090-3486-2675 (※要予約)
●10:00~19:00/土日(予約の場合のみ営業)
<http://www.17.ocn.ne.jp/~buran/>



京友禅結飾により贈付されたコラボTは8400円〜(柄によって異なる)。動物ごとに柄は変わる。T、下、今の時期なら「壁と花火」など



機能とファッション性を保った 京ブランドの新展開、スタート

京都、盆地、むせ返るような暑い夏。どれだけ薄着をしようか肌にとまわりつくあのベトベト感。暑さだけならまだしもこの不快感が加わればこりゃたまらんと、なるわけで、とこころがそんな悩みを解決してしまう夢のようなTシャツを作成するブランド「Urban Series」を「こ存じ」か? 「京ちみ」と呼ばれ、肌への接地面が少なく吸汗機能が高いという、ようは「イメテコ」生地なのだが、下着のイメージの強かったこの生地をTシャツへ転用することで、実現した爽快感。「ベタベタせへんし、コレ着ると他のTシャツは着れなくなりまして」と店主、そしてこの度、ショップリニューアルを経て、本格的に京の真ん中からブランドを発信し、様々なコラボ作品も登場予定。



定番の「1000Series」2100円。天然繊維と合成繊維の2つの長所をもつ新合成繊維ソフィスタを折り込み、よりストレッチ感、水分吸収・拡散能力に優れた「2000Series」2310円

●株式会社 山城 かぶしきがいしゃ やましろ

■京都市中京区富小路三条下ル朝倉町539
☎075-221-4456
●10:00~19:00/不定休
<http://www.coolwear.biz/>



※BEING CHECK IT OUT!!
ロコミ情報カタログ

INFORMATION

イベントから祭への変遷、 まさが見逃すおつもりか？

踊りと言っても、当日ほんの少し教わるだけで、すぐにその輪に入ることが出来る

毎年、岡崎・平安神宮一帯にて、音楽コンテストやらダンスパフォーマンスやらを繰り広げてきた「京都学生祭典」。企画立案はもちらんのこと、営業や広報、警備など全てが、学生たちの手によって開催される「イベント」だった。昨年までは、第3回となる本年は、学生祭典がイベントという枠を越え、「祭」としてこの京都に根付くようにと、趣旨変え、好評だった学生音楽コンテストなどはそのままに、祭には欠かせないオリジナルの「おどり」を用意。オーブニングとフィナーレには、来場者・出演者が一斉に舞い、踊る。これまで学生に偏りがちだった来場者の世代拡大なるか。伝統ある祭が多くある京都で、100年先にまで受け継がれる新しい祭となるか…。すべてはこれからだ。

第一回より行われているKyoto Student Music Award。デビューのバックアップが約束される優勝を目指し、全国から学生ミュージシャンが集まる

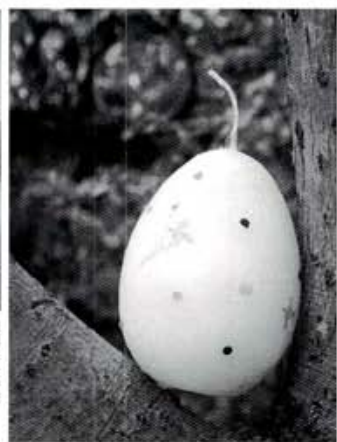


●第3回京都学生祭典

会場：平安神宮境内、岡崎公園周辺道路、岡崎グラウンド、など
日時：10月9日(日) 10:00~20:30 ※時間は変更の可能性あり
問い合わせ先：京都学生祭典実行委員会 075-353-9432
<http://www.kyoto-gakuseisaiten.com>



絶妙な色合いや大胆な色使いも福間さんの得意とするところ。写真は刺しゅう糸を使って鼻を描いた「たまご」800円。最近の新作「黒×ターコイズブルー」のシックな色合いの「カラス」1200円は男の子にこそ使ってほしい



2004年キャンドルクラフト賞を受賞した「虹」の色違いバージョン「年宵(小)」800円。火を打つと乳白色に透けて生きてみたい…ってついついロマンチックな気分だ

本来、暗闇で光を放つてその役割を果たすキャンドル。ところがキャンドル作家・福間乃梨子さんの作品「NUR」はちょっと違う。太陽の光にかざすと、そのやわらかい色味がふんわりと浮かび、ぼつたりとしたフォルムがキャンドルや砂糖菓子にも見える。火を灯さなくても心がポワんと温かくなる。作り上げて完成する絵画や陶芸と違い、「作ったものに火を点けて溶かす。溶けた材料でまた作る」終わりのない創作に魅かれて、大学卒業後キャンドルの世界へ。現在は京都のショップを中心に雑貨好きの女の子に向けて創作の日々。でも「男の子の部屋に、大っきいキャンドルが飾ってあったら…ちょっとイイかも笑」と、言うことで、最近は大ぶりなものやシックな色を使ったキャンドルも増えつつある様子。

●NURI

■取り扱い店舗：Alphabet アルファベット
■京都市北区上賀茂桜井町101 エデン北山1F
☎075-702-3498